

二〇二三年 元日法要 修正会(しゅしょうえ)のご案内

日 二〇二三年一月一日
時 十時三〇分より
場所 徳泉寺本堂
内容 勤行 法話

新年最初の法要を、元日の朝
勤修いたします。新しい年の始ま
りをご門徒の皆様と共に迎え
できればと思います。ご無理の
ないところでご参集ください。

今月のことば

人は
出会いによって
育てられ
人生は
別れによって
深められる

京都東本願寺の法語行灯より。
私たちは目の前にいる人との関わりから学び、考え、育てられています。それは別れを通して私たちの心に、より深く届いてくるのではないのでしょうか。

境内の花々



ヒメツルソバ

十二月 同朋会

十二月十日(第二土曜日)

時間 午後一時から三時

内容 勤行 法話

どなたでもご参加ください

住職法話「願いに生きる」

今月の言葉「これでいいのだ」の話を子ども会でしたところ、ある子から「いじめや犯罪にあたりしたら「これでいいのだ」とはいえないんじゃないの?」と指摘がありました。私たちの周りには確かに思いもしないことが起きてくるし「これでいいのだ」と言えない現実の壁が立ちはだかってくる。震災やコロナも然りです。そういう障りや避けにくい、捨てていくというよりもそういうことを障りとしないうる生き方が仏様の心「えらばずみずみすてず」という言葉に現れています。自分の姿を見て受けとめられない自分、見捨ててしまいたくなる自分を仏は「えらばずみずみすてず」願ってくれている。その仏の願いと私の願いが重なったとき「これでいいのだ」とうなずける私になれるのではないのでしょうか。

前住職法話「関係存在の私」(抜粋)

人間とは一人で生きていくことはできません。自己存在であると同時に関係存在であるからです。小川一乗先生が結婚式の祝辞の中で「結婚とは自分の思い通りにならない者が傍にいて、自分の思い通りにしたい心が見えてくる、そういうものです。」とおっしゃいました。人間、思い通りにならないと「苦」になります。その苦しみはどこからくるのでしょうか。妻が夫を苦しめているのか、夫が妻を苦しめているのか。いいえ、そうではありません。思い通りにしたい自分の心が自分を苦しめているのです。人間とは共に生きるということが成り立たなくなると、一人一人の居場所がなくなり、生きていけなくなってしまうます。共に助け合って生きるということがどうしたらできるのか、という問題を持つているのが私たちなのです。そして浄土というのは私たちが共に生きるところで生が成り立つ場所だと言えます。

『徳泉寺報』後記

新しい手帳を買いました。できたことできなかったこと。やりたいことやらなければいけないこと。今年のうちに頭の中を整理して来年を迎えたいものです。